

① 先生の人数は1クラスに2人以上いてもよいのでは、と思います。昨今の事情により難しいのは理解しておりますが、「よりよく」という意味ではそう考えます。

→ クラスの中に、担任以外に副担任の先生がいればよりよくなるということだと思いますが、中学校と違って小学校では人の余裕がないというのが現実です。

**制度的に副担任になれない先生が多い**

今、千二小には、学級担任以外に、10名の先生がいます。

そのうち4名は、大阪府からの加配教員、という立場になります。生徒指導、4・5年理科専科、初任者指導、外国語専科の4名です。それぞれ与えられた役割を担っていて、例えば外国語の先生は、年間840時間以上の授業実績が求められます。その実績がクリアできなければ次年度の千二小に、外国語の先生がいる保証はありません。ですので、これら4名の先生を当初の目的外となる副担任にすることは不可能です。

残り6名は、学校規模(クラス数)に応じて千二小に割り当てられた先生です。校長、教頭、4・6年理科専科、教務(体育なども担当)、算数少人数指導、音楽専科の6名です。ではこれらの先生が、自由にどの教科でも教えられて、副担任になれるかということ全員がそうではないのです。

これは他校の例です。ある音楽の先生がいました。この方は中学校の音楽の教員免許を持っていますが、小学校の教員免許を持っていません。実は、専科指導では、中学校の免許を持っていれば、小学校の該当する教科の授業を持てるのです。その学校では臨海学習があるのですが、このとき、子ども10人ぐらいずつ水泳班があって、いろんな先生(6年の先生でなくても)が班を一つずつ受け持つわけですが、音楽の先生は受け持つことができません。仮に水泳が堪能であっても駄目です。なぜなら、臨海学習は小学校の体育の授業の一環であり、この先生の免許では体育の授業は持てないからです。子どもは、免許を持っている先生から授業を受ける権利があります。

また、雇用の段階で、「この教科の授業で」という形で入っている先生もいます。

つまり、小学校で務めている先生だからといって、全教科を担当するクラスの担任や副担任に誰でもがなれるわけではないのです。

ちなみに今の千二小で、校長・教頭以外であえて副担任を作ろうとすれば、実質的にそうできるのは1名ほどです。

**「クラス担任」に穴を開けないのが最優先**

日々新しいことを学び続ける必要がある学校の先生は、研修が義務であり、また業務のなかに研修が含まれています。他職と違うところだと思いますが、法的に研修する機会が保証されており、勤務時間の中で、仕事として研修を受けています。初任者研修など、必ず受けなければならない研修も多くあります(受けなければ失職します)。

たとえば、午後からクラス担任が研修で抜けたときには、クラス担任以外の先生たちが中心となって、その担任のクラスの子どもたちの指導に当たります。

研修以外にも、病気や家事都合等で担任が抜ける場合もあります。新型コロナやインフルエンザが警戒されるなか、何日か連続してクラス担任不在となる場合も十分あり得ます。そんなときもクラス担任以外の先生たちが手分けをして、子どもたちの学びを止めないようにしています。

副担任を作ってしまうと、研修や何か不測の事態によってクラス担任がいなくなったときに、カバーできる人員をなくしてしまうことになります。

「クラス担任」業務に穴を開けないのを最優先に考えたとき、副担任を作るのは大きなリスクとなります。

.....

② コロナで例年できていることが中止になったり、学校としてもさまざまな対策を考え対応して下さったりしてありがとうございます。

→ 気をつけながら、できることをやっていく、ということに尽きると思います。

3月19日現在、大阪府ではコロナの感染者が累計で280万人を超えています。大阪府の人口は

約880万人です。単純に感染者数を人口で割ると、約30%となります。つまり大阪府民の10人に3人が感染している計算になります(複数回感染している方や移動もあるので、あくまで参考です)。この一点をもってしても、大阪府下は油断のならない状況であることは明らかです。

吹田市内も、ここ数年間厳しい状況が続いています。本校では、現在感染状況は落ち着いていますが、これまでの感染者数、感染率はおそらく市内の学校のなかでもとくに厳しい状況でした。急に感染が広がる傾向もあり、かつては校内の半分のクラスが学級閉鎖という状況になったこともありました。今年度に限っても、すでにのべ10クラスが学級閉鎖になっています。

個人情報保護のため、真の欠席理由を伏せている場合もたくさんあります。校内の感染者数は、もちろん公表していません。先に大阪府全般の数値を紹介しましたが、千二小の校内はもっと厳しい状況でこれまでやってきました。

校内で、季節などに関係なく、誰かが感染している日のほうが多いのです。コロナがニュースなどで取りざたされるようになってから、完全に「落ち着いた」と思えたことは、千二小では一度もありません。

「市内の他の学校では、あんなこともやっているのに、千二小では・・・」という声をいただくこともあります。ただ、同じ吹田市内でも、学校によって感染状況は違います。各クラスの状況、保健室の状況、保護者・地域からのお声、吹田市からの指導・助言など、総合的に判断して各学校が何をどこまでできるのかを判断しています。

コロナの感染者が出れば毎日、学校は吹田市とやりとりをして、常にさまざまな判断をしています。学校の対応に変化がなかったとしても、それは判断をしていないのではなく、「現状維持」の判断をしていると思ってください。

さまざまな制約のもと、工夫してできそうなことと、できないことがあります。学校の状況がよくても、行き先の場所や施設のほうから活動を断られる場合もあります。相手にご高齢の方がおられるときはこちらから遠慮させていただくこともあります。

今後、学校の行事がかつてのようであれば、というのは職員一同思っていることです。ただ現状を直視し、安全を優先したいところです。とくに千二小では、これまでの状況を鑑みて、基本的に慎重でありたいと考えています。

.....

③ 学校公開を再開していただきたい。

→ コロナの感染状況によります。

コロナの状況が厳しい場合、学校に来てくださった方が感染者になったときに、その方が校内でどの場所におられたのかを把握する必要があって、自由にどこでも参観できる「学校公開」は実現することは難しかったのです。

いまは、保護者の方の学校行事への参加については、基本的に人数制限をしない、との方針が府から出ているので、気をつけながらですが、まずは通常の参観・懇談を再開させ、その後可能であれば、学校公開の再開を検討していきます。

.....

④ 5年生で算数教室の習熟度別で分けないのは先生も子どもも大変そうだなと思いました。子どもが多いので難しいかなとも思うのですが、5・6年もやってくれたらうれしいな、と思います。

→ いま、国の施策で高学年の専科制が進められています。対象は、5・6年生で、科目は算数・理科・体育・外国語です。指導する内容が高度化し、また中学校での学びにうまくつなぐためにもこれらの教科の授業の充実が求められています。

本校では、もともと理科と外国語の専科の先生がいるので、これまで通りそれを維持しています。残りの算数と体育については、担任の先生同士での「交換授業」をできるだけ行って対応しています。

この専科授業ですが、一人の先生が指導することが基本となっているのです。習熟度別に二人の先生が指導した場合は、専科指導をしたことになりません。つまり、5・6年生に習熟度別の算数をしてしまうと、専科指導の趣旨に反するので、習熟度別指導は採ることは難しいのです。

専科指導には専科指導の良さがあるので、それを生かしていきたいと考えています。もちろん習熟

度別指導の良さも承知していますが、大きな教育行政の流れの中で、今後は専科指導に重点を置くこととなります。

.....

⑤ 校庭の遊具を早く使えるようにしてください。

→ 業者による検査の結果、校庭にあるたくさんの学習具が、安全基準の面で問題があり、使用不可となりました。これは、千二小だけでなく市内のすべての学校で起こりました。

これらをすべて改めるには莫大な予算が必要で、すぐに修繕することはできませんでした。そこで、鉄棒など、授業で使用する必須のものを優先して修繕することになり、それらの工事は終わっています。

あとは「遊具」ですが、すでに工事は決まっています。ただ、市内すべての学校に関係しているの  
で、時間がかかります。また、同じ校舎内に複数の工事対象があり、工事中に学びを止めないように、  
いっぺんに全部ではなく、一つずつ修繕していくとのこと。

.....

⑥ クラスの人数が多すぎる。新5年生は5クラス体制を検討していただきたい。

→ 検討をしています。ただ、そのために先生が一人増えるわけではないので、クラス担任以外で、あ  
る一人の先生が担ってきた役割をなくし、その先生をクラス担任にするしかありません。

校内の工夫によって、一人の先生を捻出するわけですが、今検討しているのは、3年生の算数の先  
生をなくし、5年の学級担任を一人増やす、というものです。そうした場合、3年生の算数はクラス  
担任が一人で担当することになります。